



平成26年10月3日

各 位

会 社 名 株式会社 セキド  
 代表者名 代表取締役社長 関戸 正実  
 (コード番号 9878 東証第二部)  
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭  
 (TEL. 03-6273-2053)

## 第2四半期業績予想との差異及び通期業績予想の修正並びに特別損益の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成26年4月1日に公表した平成27年2月期第2四半期累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正並びに特別損益の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 業績予想との差異及び特別損益の計上について

平成27年2月期第2四半期(累計)業績予想数値との差異(平成26年2月21日～平成26年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,600	35	2	△12	△0.85
実績値(B)	4,599	△232	△261	△231	△16.36
増減額(B-A)	△1,001	△267	△263	△219	
増減率(%)	△17.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年2月期第2四半期)	5,790	△27	6	66	4.72

### 第2四半期(累計)業績予想数値との差異の理由及び特別損益の計上について

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、4月1日に施行された消費税率引き上げの影響により、増税前の駆け込み需要と増税後の消費の反動減が顕著でありました。

当業界におきましては、一部の高額腕時計や高額ブランドバッグなどでは消費税増税による売上高への影響が顕著に見られた反面、全体としては、長引く円安や材料費高騰の影響による消費者物価の上昇傾向を受け、基本的には消費に慎重な姿勢も窺われ、売る側としては、駆け込み需要をいかに取込むか、また、反動減の影響をいかに小さく抑えるかが焦点となりました。

このような環境下、当社は、前事業年度末より在庫確保に努めるとともに、チラシ販促とDM販促の投入強化を図り、増税前の駆け込み需要の取込みについては、一定の成果を上げることができました。増税後は顧客データを活用したDM販促による人気ブランド商品やプライベートブランド商品の販売キャンペーンや特設売場での催事を展開するなど、早期の売り上げ回復に努めましたが、消費税増税の影響は想定以上に長期化し、売上高は計画比、前年比とも大きく落とす結果となりました。

一方で、主力事業であるファッション事業の今後の展開として、小売法人向けの商品供給や販売業務委託などによる売上の拡大に着手しております。国内免税品販売のリーディングカンパニーであるラオックス株式会社との業務提携を通じ、今後、それぞれの経営資源を有効に活用した効率的な協業を深めることにより、事業拡大を目指してまいります。

これらの結果、売上高は4,599百万円(前年同期比20.6%減)、営業損失は232百万円(前年同期は27百万円の営業損失)、経常損失は261百万円(前年同期は6百万円の経常利益)となりました。また、特別利益として投資有価証券売却益49百万円を、特別損失として第3四半期に売場面積の減床により効率化を図る改装を実施する2店舗について、

減床部分の設備の除却見込み額10百万円を計上した結果、四半期純損失は231百万円（前年同期は66百万円の四半期純利益）となりました。

## 2. 通期業績予想の修正について

平成27年2月期通期業績予想の修正（平成26年2月21日～平成27年2月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,800	190	120	90	6.35
今回発表予想(B)	11,000	110	40	50	3.53
増減額(B-A)	△800	△80	△80	△40	
増減率(%)	△6.8	△42.1	△66.7	△44.4	
(ご参考)前期実績 (平成26年2月期)	11,913	89	97	107	7.57

### 修正の理由

消費税増税の影響が長引いたことで上半期は売上を大きく落としましたが、景気は回復基調にあり、足元の業績も9月度は売上高がほぼ前年並みまで回復しております。内外の金利情勢を反映し円安が進行していることもあり、既存店舗の売上については前年同期の実績をやや下回ると予想しておりますが、一方で、上半期に着手したラオックス社向けの商品供給については海外からの観光客の増加などもあり、順調に売上を伸ばすことが想定されます。また、販売管理費についても人件費や広告宣伝費の見直しによる効率化を図ることで、利益率の向上に取り組んでまいります。通期業績につきましては、当初予想からは下げますが、下半期の業績予想を引き上げることで、通期での黒字確保を図ってまいります。

※ 本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上